

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

しかられ続けて考え抜く習慣がつく 岩倉 信弥 (元 本田技研常務)

1. 本田宗一郎は、部下をめったにほめなかったが、ほめるときは本当にうれしそうでした。うまい言葉を使うわけではありませんが、心から喜んでいるのがわかる動作と表情でほめていました。おっかないけど、この人についていけば、何か楽しいことがあるんじゃないかと思わせるところがありました。喜怒哀楽は激しいけど、そういう魅力がありました。
2. 私はホンダOBの中で、本田宗一郎から最もしかられた人間といえるのかもしれませんが。私は本田宗一郎からしかられ続け「考え抜く」という習慣がつかしました。本田宗一郎の怒りが爆発するのは、私を含めた部下が、本田宗一郎の「こうすればもっといい車ができるはず」という思いをうまく受け取ることができなかつたときです。それは「お客さんのことがわかっていない」ということです。
3. 今、体を震わせるほど真っ赤になってしかってくれる人がいるだろうかと考えます。しかられることで、自分がわからないことを知ることができます。なぜしかられたかを追究するようになる。実は今でも夢に本田宗一郎が出てくることがあります。夢の中でもすごいプレッシャーをかけてくる。払いのけても払いのけても出てくる。仕事の厳しさと面白さを刷り込んでくれた人です。

(参考:「週刊東洋経済」2010年3月27日号)

経営者のための危機管理

小さな改善の積み重ねが改革へつながる

遠藤 紘一 (リコー副社長執行役員)

1. 「今こそ改革を実行すべきだ」。2008年9月のリーマンショック後、こうした言葉をよく聞く。小さな改善を積み重ねても焼け石に水。改革を断行して、起死回生のV字回復を狙うというわけだ。改革という言葉に多くの人が引かれる一方、改善については改革ほどの関心を払わない。だが、改善の効果を軽視してはならない。
2. 例えば、一人ひとりの社員が毎日、100円を削減する改善活動に継続して取り組んだとする。年間の総労働日数を200日とすると、一人当たり年間2万円を削減できる。一方、リコーグループの社員数は、全世界で10万8500人。削減額は合計で21億7000万円になる。これは、改革がもたらす数字に匹敵するだろう。一日100円という小さな改善を積み重ねるだけでも、これだけの改革を起こせるのである。それに気がついていないのは、目に見えて大きな効果がすぐに表れないからだ。

(参考:「日経ビジネス」:2010年3月29日号)

経営者のための営業学

異常に素直な経営

大村 禎示 (西松屋チェーン社長)

1. 従来、日本は小売業は子供を連れた顧客にとって、快適とは言い難い店舗運営を続けてきた。通路は狭く、ベビーカーで通り抜けるのに一苦労。四六時中BGMが鳴り響き、複雑なレイアウトの店内には、子供がぶつかってけがをしそうな什器やマネキンが並ぶ。子供の世話のため一刻も早く買い物を済ませたいのに、レジはいつも長蛇の列。さまざまな過剰サービスのコストが含まれる結果、価格も決して安くない。
2. 日本一の子供服店西松屋チェーンは、そんな顧客に、ストレスを感じることなく買い物ができる店舗を提供した。通路はベビーカーが3~4台すれ違えるほど広く、店内はいつも空いていて、過剰な接客は一切ない。極限まで効率化された店舗運営の結果、価格も安い。現在Tシャツは1枚299円から販売され、顧客は、子供の成長に合わせ値段を気にせずまとめ買いすることが可能だ。西松屋の躍進は、今から20年前、米国生まれの「チェーンストア理論」と「顧客第一主義」を「異常に素直に」実践し続けたことだ。

(参考:「日経トップリーダー」2010年6月号)

古典に学ぶ

「修身教授録」・語録50選 (その2)

1. 人生の真の出発は、志を立てることによって始まる。
2. 真の眼目を誤ると、努力がつかない。
3. 一日読まざれば一日衰える
4. 偉大な実践家は、大なる読書家である。
5. 「志」は師によって立つ。

(参考:森 信三「修身教授録」:致知出版社)